

令和5年度 第1回福祉サービス運営委員会報告書

- 1 開催日時 令和5年11月20日(月) 13時56分～15時26分
- 2 会場 大分県福祉会事務局3階会議室
- 3 出席者 (第三者委員) 仲元研二氏 岡村邦彦氏 吉田 隆氏 溝邊博見氏
(利用者家族委員) 梶 容子氏 村田暁美氏 後藤小百合氏
(事業所委員) 安東一夫施設長 関谷真佐子施設長 安藤 覚施設長 堤 郁夫施設長
阿南奈緒美施設長
(法人代表) 有松一郎理事長
- 4 内 容
有松理事長、仲元委員長の挨拶後、委員長の進行で事務局及び各施設の現状と苦情や要望等の状況報告及び協議

(1)本部事務局

① 重点的取組、法人の現状について説明

安全安心を最優先に感染防止対策に取り組みサービスの利用制限や地域活動の自粛等の対応、試行錯誤を重ね事業活動に取り組んでいること、2類から5類へ移行が決まり大きな変化が考えられる中、基本的な感染防止対策の徹底を図りながら、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えてブランディングの推進を図り中期事業計画の着実な実現に努めていることを報告した。

- ② 苦情及びヒヤリハット・事故報告～なし。
- ③ その他～なし。

(2)別府厚生館

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・定員16世帯(暫定12世帯)、11世帯39名が入所中である。
- ・安心安全、母子を分離しない支援、家族の再統合や再構築する支援が求められている状況にある。
- ・入所の傾向は、県外からのDVによる避難が多数を占め、利用者の安全を最優先した支援が求められている。

② 苦情等について

- ・意見箱への投書 なし。
- ・口頭によるもの 自治委員、民生委員に施設を退所したいが、話が進まない相談する。

③ その他

- ・0歳児RS感染症で入院。
- ・コロナ感染 利用者1名、職員2名。

(3)うえの園・清明あけぼの学園

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・高齢化、障害の重度化に伴う利用者支援の充実、小規模施設の特徴を活かした支援の充実、質の高いサービスの提供、施設機能強化、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。
- ・うえの園 施設入所支援：20名(定員20名) 生活介護：29名うち通所利用9名(定員20名)。
- ・日中一時支援・短期入所定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れを中止、緊急時は要相談。
- ・相談支援事業所：特定相談支援～計画作成並びにモニタリング数161件。
障害児相談支援～計画作成並びにモニタリング数269件。
- ・清明あけぼの学園 施設入所 10名(定員10名)。
日中一時支援、短期入所 定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れ中止、緊急時は要相談。

② 苦情・要望

- ・意見箱 2件。
- ・要望 買い物等2件(サビ管対応)。
- ・直接 うえの園：短期入所利用者の入浴支援を依頼されていたが、予定表への転記漏れがあり実施しておらず、ご家族よりの連絡有。→ 電話口にて謝罪、後日サビ管より再度謝罪と改善について説明し納得された。
うえの園：ご家族から利用者のお金を貸してほしいとの申し出有。→ お断りをしたところ立腹された。その件についてご家族を支援している方に情報共有をしたところ、引取りたいと申し出有。→ 最終的に、ご家族からこれまで通り入所支援の利用を依頼された。

- ③ ヒヤリハット（うえの園 1件、清明あけぼの学園 4件）
- ・うえの園／転倒しそうになった。
 - ・清明あけぼの学園／薬の飲み忘れに気づいた。受診時道路のレーン変更気づかなかった。高速道路走行中に飛び石有。幼児が単独でEVに乗ろうと繰り返す。
- ④ 事故報告（うえの園 13件、清明あけぼの学園 9件）
- ・うえの園／導尿をしていなかった。～ 看護師への依頼ができていなかった。→ 看護師不在時もあるので、協力医療機関へ依頼をするように周知する。
 - ・うえの園／誤嚥。～ ハンバーガーのパテがのどに詰まりせき込み吐き出した。パテが硬めで一部喉につかえた。→ 食物のカットサイズ全員再確認し一覧表を更新した。
 - ・うえの園／受診キャンセル ～ 受診のため食事抜きに利用者へ食事を提供 → 留意事項の引継ぎ方法見直し。
 - ・清明あけぼの学園／転倒4件。～ 補装具をつけて訓練中のため歩行が不安定。→ 見守り時の職員の立ち位置等見直し、取り込んだ洗濯物の山にダイブし、上唇を切って出血。
 - ・その他～うえの園／ 服薬3件、転倒、器物破損、単独で玄関外へ出る。他害2件、公用車駐車場で自損事故。
清明あけぼの学園／ 服薬3件、器物破損2件。

(4) 森の木

- ① 重点的取組と現状について説明
- ・社会的養育推進計画の着実な遂行、児童家庭支援センターの充実、ショートステイ専用居室の整備の計画、働きやすく、安全安心な職場環境の整備、地域公益事業の充実に向け取り組んでいる。
 - ・本体施設 25名、地域小規模 11名。
 - ・被虐待児童入所率（86.1%）発達障害（69.4%）ひとり親家庭（72.2%）。
 - ・子育て支援事業（ショートステイ等137日、一時保護34人延547日）ゆずりは・HOPE相談等4391件。
- ② 苦情等
- ・聴き耳頭巾意見箱への投書（6件）。
 - ・ユニット子ども間のトラブルに対する不満 → 事実関係を確認し、双方の言い分聴き取り調整。
- ③ ヒヤリハット及び事故報告
- (1) ヒヤリハット
- ・児童のみで卓球台をセットしようとした際、倒れてしまう。小5女児が太腿を打撲。
 - ・夕食後服薬の薬を朝食後に飲ませる。健康被害はなし。
 - ・小6男児が学校から帰園後、居室にて拾って持っていたライターでティッシュに火をつける。慌てて窓から外に投げた後、トイレトペーパーで消そうとし（本人談）さらに引火。職員が匂いに気付き煙が出ているのを発見し消火。
- ※ヒヤリハット事案については、職員会議で全職員に周知し、注意喚起を行っている。
- (2) 事故報告
- ・4/8 小5女児が自転車で公園から帰る途中で転倒、右手首付近の腕骨と尺骨にひびが入る。5/15までギプスで固定。後遺症等なし。
 - ・6/23 小6男児が登校中に大分川土手で通学中の高校生男児の自転車とぶつかる。本児は左腕を打撲、相手高校生は転倒し右手中指の付け根を骨折した。警察からは双方注意を受ける。
 - ・7/18 ゆずりは職員が大在方面へ利用者を迎えに行く途中、197号線中鶴崎交差点にて、信号が青の矢印に変わりブレーキから足を外したところ前車が発進しておらず衝突。
 - ・7/22 幼児ユニット職員が幼児3人を同乗させ、大分こども病院へ。駐車場にてバックで駐車しようとした際に、目測を誤り駐車場の金属製柱に接触、右後部フェンダー付近を損傷。
 - ・7/31 中3男児が自転車で塾に行く途中、賀来新川交差点で左折してきた軽自動車と衝突。本児が道路に飛び出した格好で、車はよけきれなかった。本児は救急車で県病に搬送、診断は顔面骨骨折（右目付近3カ所）・脳震とう。4日間入院し、現在のところ後遺症はなし。
 - ・8/5 地域小規模職員が公用車に児童2名を同乗させ衣類購入に行く途中、近所にて対向車と離合するため停車。発進した際に運転席側前方のブロック塀を気にしすぎたため、左下方のブロック塀に気付かず接触。左後部フェンダー付近を損傷。
 - ・9/1 高3男児が下校途中、学校近くの家から出ようとした車に気付くのが遅れ接触。本児は左手肘付近のすり傷。相手方車は修理不要とのこと。
- ※ 職員会議、引継時などあらゆる機会に声掛けを行うとともに、外部講師による研修を実施した。
- ④ その他

- ・今年度これまでに、新型コロナウイルス感染症に児童2名と職員1名が感染、インフルエンザに児童2名が感染したが感染拡大及び重篤化はなし。

(5)滝尾保育園

① 重点的取組・現状について説明

- ・保育環境を充実させることで保育の質の向上を図っている。職員研修の充実、働きやすい職場づくり、公益的事業の充実を図る。
- ・園児数 221 名（定員 200 名）、一時預かり登録児数 27 名、放課後児童育成クラブ在籍児数 75 名。

② 苦情・要望等

(1) 保護者から

感染症回復についての意見書(医師記入)について。

(2) 一般

- ・たきお青空マルシェ開催についてのチラシ戸別配布について。
- ・送迎時、エンジンをかけっ放しの駐車車両(エンジン音)について。

③ 事故(病院受診)報告

- ・4歳女児 室内で他児の足に引っ掛かり転倒、床であごを打ち切る。
- ・児童クラブ1年男児 父親に引き渡し後、転倒。額打撲出血⇒救急車要請。
- ・4歳女児 室内で他児が投げたコマが顔(鼻の上)にあたる。
- ・2歳男児 ハチにさされ、腫れがひかなかった。
- ・1歳女児 腰掛から転倒、上前歯と上唇を痛めた。
- ・1歳女児 午睡中に右肩脱臼。

※病院受診の有無を問わず、子どもが怪我をした場合、発生状況や対応の経緯、発生要因の分析、今後の対策を様式に記述し、全職員に回覧する。※毎月、リスクマネジメント会議。

(6)明野しいのみ保育園

① 重点的取組・現状について説明

- ・子どもの尊厳を守り、子ども主体の保育、権利擁護の理解を深め人権を大切にされた保育を進める。保育のICT化を行い業務の軽減に取り組んでいる。
- ・園児数 155 名（定員 152 名）。

② 要望及び苦情

保護者や近隣からの苦情はなかった。

③ ヒヤリハット及び事故報告

(ヒヤリハット)

- ・毎月リスク委員会で集計、職員に周知、4月～10月で71件。
- ・1歳女児が、他の子のお迎えで部屋のドアが開いた際一人で部屋から出ていき玄関も同じく送迎で保護者が開けた際に出ていく。保護者が気づき知らせてくれる。
- ・3歳男児、朝の公園遊びに出かける時間帯に登園したのを担任が確認したもの、2階テラスでの人員確認でいないことがわかる。いつも2階テラスから戸外に出ていくのに一人で1階玄関から出て行き送迎で門扉が開いたすきに外に出たところ職員が見つかる。
- ・給食の卵焼きにクッキングシートがついたまま提供した。・いつも卵除去のちゃんぽん麺をしようしているが別のものが来ていて直前に気が付いた。
- ・嘔みつき、転倒、引っ掻き、柵に登る。

(事故報告)

- ・病院受診したもの（いずれも様子観察後問題なく終了）。
- ・(1歳女児) 園庭で三輪車に乗っていてバランスを崩し倒れて階段の角で頬を打撲。様子観察。
- ・(3歳男児) 室内で転倒、歯を打ったのと唇を切る。様子観察。
- ・(2歳男児) 園庭で友達とトラブルになり互いに手が出る。目の下の引っかき傷と目の充血、点眼で様子観察。
- ・(1歳女児) 保育室で転倒しテーブルの縁で口を打つ。口腔内出血あり。様子観察。
- ・(3歳女児) 保育室で転倒、左目下を本柵で打つ。病院受診し異常なし。

④ 病気・感染症等の状況

- ・4月は嘔吐や下痢で欠席が多数(31名)6月～ヘルパンギーナ(18名、6月～9月新型コロナウイルス感染症(16名内職員5)。
- ・8月～10月インフルエンザA型(47名内職員5)。

- 他、手足口病・水痘・アデノウイルス・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症等散見された。
- ・新型コロナウイルスによる学級閉鎖 5月2クラス 8月1クラス。
 - ・RSウイルス、アデノウイルス、感染性胃腸炎、突発性発疹、手足口病、プール熱、ヒトメタニューモウイルスが散見された。

(7)協議

○委員より

- ・別府厚生館：利用者が退所の話が進まない民生委員とともに相談に見えたので後日、利用者、施設長双方から思いを伺った。
- ・うへの園：2年ぶりの面会で、穏やかな表情になっており、周囲が優しく接していただいていることがわかり感謝している。65歳問題が気がかりで、ぜひ看取りができる施設として機能を広げてほしい。
- ・滝尾保育園：運動会の保護者競技が実施され、盛り上がりいろいろな姿を見ることができ良かった。職員の子どもに寄り添う力や保護者や保育者間のコミュニケーションの良さを感じる。
- ・明野しいのみ保育園：保育参観で子どもの姿をみることができた。体育遊びが充実して、子どもたちが楽しそうに体を動かし丈夫な体を作り、集団生活のルールを学んでいることを感じている。保護者アンケートにも迅速に対応していただいている。保護者に給食を提供していただき味付けや量を確認することができ等多岐にわたりていねいに対応していただいている。

給食を先に減らすことで、残りが少なくなり無駄が少なくなるという思いもあるが。(残さず食わせてあげたいという強い思いがあると、間違った方向に行ってしまう。残しても大丈夫、安心して食べて大丈夫、残っていても、前よりたくさん食べることができたことを認めるのが方向性である。)

○岡村委員の総評

- ・別府厚生館のケースは、福祉サービスの提供が利用者のためになるのかを考えて対応する必要があるが、人を相手にする場合、強い要望や厳しい対応を強いられることがある。最も大切なことは、どのようにすれば信頼してもらえるか考えながら仕事していく。相手方から信頼を受けられない限り、問題の適切な解決はない。ありのまま話を伺い、そのうえでできることできないことを最初の段階で説明する。理解と信頼が大事である。
- ・清明あけぼの学園の服薬の問題はどの施設でも苦労している。誤嚥と転倒については事例が蓄積されているので、対応マニュアルもあるので参考にしてもらおうとよい。誤薬の問題は系統的に解決を図るほかない。
- ・森の木の取組については、サービス内容が充実しており、きめ細かい取り組みができています。
- ・本部はどのような目標をもって施設を運営していくのか難しさもあるが、福祉サービスを提供する職員が誇りと情熱をもてるかが問題である。誇りをもって仕事をすることはその仕事に対する責任感が必要となる。情熱はずっと燃え続けるものではなく、常に火が消えないように薪を足し続ける必要がある。どのようにして燃やし続けるかを考えるのが本部に役割である。
- ・提供受ける福祉サービスで利用者が喜びと感動を感じてもらえることが最良である。

○理事長あいさつ

委員の皆様から勇気がわく言葉を頂いた。同時に大きな宿題も頂いた。現場の誇り、やりがいを見いだしながらチャレンジしていきたい。親亡き後問題は、サービス提供を始めた時からの積み残した課題である。将来的にしっかり取り組むべきものと認識している。コロナ禍で得た経験は、うがい手洗い等の基本対策に勝る対策はないということである。福祉サービス全般についても、何のためにあるのか、誰が喜ぶのか、誰が頑張っていくのか、誰にとって生きがいになるのか、そのような基本的なものを大切にしていき、信頼と負託に応えていきたい。

(15時26分閉会)